

●最近の米国経済について

FRB、経済見通しを上方修正

連邦準備制度理事会（FRB）は11月24日、2012年までの経済見通しを公表した。09年後半の成長が予想を上回ったことから、前回見通し（6月）に比べ09年、10年の見通しを上方修正した。家計や企業を取り巻く不確実性、雇用情勢などの重しが取れるのは11年になる見通し。景気の下振れリスクとして雇用など、上振れリスクとして消費の回復の強さなどを挙げ、リスクはほぼバランスしたとの見方を示している。

10年以降の経済シナリオに大きな変更はない。10年中は、a. 家計や企業を取り巻く不確実性、b. 腰の弱い雇用情勢、c. 銀行部門の厳しい融資環境の緩慢な改善、の3つの下押し要因のため、景気回復ペースは緩やかなものにとどまり、こうした要因が改善に向かう11年以降に入って、ようやく潜在成長率を上回るペースで成長すると見込んでいる。

FRB 経済見通し

(単位:%)

	2009年	2010年	2011年	2012年	長期
実質 GDP 成長率 (6月時点の見通し)	△0.4～△0.1 △1.5～△1.0	2.5～3.5 2.1～3.3	3.4～4.5 3.8～4.6	3.5～4.8 -	2.5～2.8 2.5～2.7
失業率 (6月時点の見通し)	9.9～10.1 9.8～10.1	9.3～9.7 9.5～9.8	8.2～8.6 8.4～8.8	6.8～7.5 -	5.0～5.2 4.8～5.0
個人消費支出デフレータ (6月時点の見通し)	1.1～1.2 1.0～1.4	1.3～1.6 1.2～1.8	1.0～1.9 1.1～2.0	1.2～1.9 -	1.7～2.0 1.7～2.0
コア個人消費支出デフレータ (食品及びエネルギーを除く) (6月時点の見通し)	1.4～1.5 1.3～1.6	1.0～1.5 1.0～1.5	1.0～1.6 0.9～1.7	1.0～1.7 -	- -

小売売上高、前月比 1.3%増

商務省は、11月の小売統計を12月11日に発表した。11月の小売売上高（季節調整済み）は前月比1.3%増（前年同月比1.9%増）の3,521億ドルだった。変動の大きい自動車・同部品を除く売上高は、前月比1.2%増（前年同月比1.3%増）の2,921億ドルで、前年同月比でのプラスは、2008年8月以来。

部門別にみると、特に好調だったのはガソリンスタンド（前月比6.0%増）で、10月（同0.5%減）のマイナスからプラスに転じた。エネルギー省の統計によると、11月のレギュラーガソリン1ガロン（約3.8リットル）当たりの国内平均小売価格は2.651ドルで、10月の2.551ドルに比べ10セント上昇した。ガソリン価格は11月中ずっと2.60ドルを超える水準で推移し続けたため、11月の売り上げ増は価格効果が大きかったと考えられるが、12月に入ってから原油価格の下落に合わせて小幅に低下している。

その他、幅広い業種で売り上げが増加した。自動車・同部品（前月比1.6%増）は政府の新車購入支援制度終了後も売り上げを維持し、また、年末商戦で好調な家電（同2.8%増）と、オンラインやカタログ販売を含む無店舗小売り（同1.2%増）も増加した。一方、衣料（同0.7%減）は、国際ショッピングセンター協会（ICSC）発表の既存店売上高でも落ち込んだ。住宅関連では、家具（同0.7%減）がわずかに落ち込んだものの、建材（同1.5%増）が伸びた。

貿易赤字、縮小（米国）

商務省は、10月の貿易統計を12月10日に発表した。輸出（サービスを含む国際収支ベース、季節調整済み）は前月比2.6%増（前年同月比8.6%減）の1,368億4,200万ドル、輸入は同0.4%増（同18.8%減）の1,697億7,800万ドルで、貿易赤字は同7.6%減（同44.5%減）の329億3,600万ドルとなった。

財貿易（国際収支ベース、季節調整済み）の10月の赤字は、前月比5.4%減（前年同月比37.2%減）の448億1,900万ドル。輸出は同3.6%増（同9.9%減）の935億4,200万ドルで、消費財や自動車を筆頭にすべてが好調に伸びた。

品目別にみると、消費財では、医薬調整品（5億5,900万ドル増）や美術品（4億800万ドル増）の貢献が大きかった。また、自動車・同部品（4億1,700万ドル増）は5月以降、好調に輸出増が続いている。資本財（12億1,200万ドル増）は顕著に増加し、民間航空機（2億8,700万ドル増）や半導体（2億8,300万ドル増）のほか、多くの品目が伸びた。

主要貿易相手国・地域に対する貿易赤字（財のみ、通関ベース、季節調整前）は、対世界は前年同月比38.2%減の461億3,000万ドル。対中赤字は前年同月比18.9%減の226億6,300万ドルで、09年の最高額を更新した。輸出は前年同月比12.7%増の68億5,700万ドルで、1年ぶりに60億ドルを上回った。

経済活動、総じて緩やかに改善

地区連銀報告（ベージュブック）が12月2日に発表された。前回に引き続き、経済活動は「総じて緩やかに改善」と総括された。地区ごとに経済状況をみると、フィラデルフィア地区、リッチモンド地区、アトランタ地区は「まだら模様」、クリーブランド地区は「変化なし」、そのほか8地区は「改善」と報告した。

製造業については、地区によって「まだら模様」と「緩やかな改善」に分かれる。クリーブランド地区は、自動車メーカーが在庫補充に動いていることから鉄鋼需要が伸びたと報告した。ただし、同地区の自動車製造は前年を下回る水準で推移しているという。「まだら模様」のフィラデルフィア地区は、需要が増加した製品として食品、衣料、家具、化学製品、電化製品を、低下した製品として木製製品、鉄鋼製品、産業素材を挙げた。

労働市場は前回からさらに軟調と報告された。地区によっては、「雇用が回復し始め、09年前半に実施された賃金カットや昇給時期の見送りが解除された」（ボストン地区）、「サービス分野で雇用の拡大がみられた」（セントルイス地区）、「金融、法律分野で採用活動が増加」（ニューヨーク地区）といった明るいコメントもあったが、大半は採用活動の停滞や失業者数の高止まりを報告している。年末にかけて、例年通りなら年末商戦に対応するための雇用増が期待できるはずだが、09年はそうした一時的な雇用を削減し、「今いる従業員の労働時間を増やすことで対応する」（ニューヨーク地区、ダラス地区）との声も聞かれ、雇用環境の改善はまだ先との見方が多い。